

日ハムの日本一に学ぶ



札幌市医師会
勤医協札幌病院

西岡利泰

あけましておめでとうございます。簡単に自己紹介をします。東京出身、北海道大学2006年卒です。初期研修2年、内科勤務3年を経て、産婦人科医になりました。大学時代は登山をしていましたが、最近登る機会がめっきり減りました。3人（5歳、3歳、1歳）の子育てを8割方妻に依存しつつも、2割程度の育児を満喫しています。

新年の目標を立てるにあたり、昨年日本一に輝いた日本ハムファイターズのストラテジーを参考にしてみました。熱心なファンではないのですが…。

① 前後際断

リーグ優勝を決めた時、15連勝できた理由として栗山監督が挙げた言葉です。禅の言葉で、「過去も未来も断ち、今に意識を置く」ことを意味します。過去を悔やんだり未来を心配したりせず今に集中することが、ベストパフォーマンスにつながるということです。ご存知の通り、この15連勝から勢いがつき、リーグ優勝につながりました。ちなみに、2005年に37歳という最高齢で最多勝を獲得した阪神の下柳投手は、この言葉をグローブに刺繍しています。

今年は、外来も手術も「前後際断」で臨みます。が、意識してみると随分と過去の失敗や不安、周囲の評価を気にしていることに気付かされます。意外と難しいです。まだまだ修行が足りません。

② 本を読む

日ハム選手の寮では、朝食後10分間の読書タイムがあります。野球での成功→そのためにはいろんな考えを身につけることが大事→読書、ということで、元高校教師の木村教育ディレクターの発案です。

若手育成に定評のある日ハムにそのような秘密があったか、と思い、今年はさまざまな分野の本を読もうと考えています。ただし、医局本棚に並んだ一度も開かれていない医学書や雑誌達をどうするかは、課題のままです。

③ 目標を貼る

日ハムの選手はシーズン中2回、長期目標をロッカールームに貼り出します。このことで、目標達成への責任感が生まれます。なお、2016年現在箱根駅伝連覇中の青山学院大学の選手もやはり、目標を寮に貼り出します。2017年箱根駅伝3連覇できるでしょうか。

私も医局に目標を貼り出す、と言いたいところですが、残念ながらそこまで心が強くなく、パソコンの中に留まっています。医局に貼り出せる日は来るのでしょうか。

④ 楽しいことをやる

シーズン序盤に調子が上がらない大谷選手を見て、栗山監督は「野球が楽しそうじゃない」と感じ、楽しめるためにあえて困難な課題を与えたそうです。それが「リアル二刀流」であり、その後の躍進につながりました。

私にとって他人ができない困難な課題が「楽しいこと」になるかは甚だ疑問ですが、仕事の中に「楽しいこと」を見つけてチャレンジしていきたいと考えています。

当科ローテート中の楽しそうじゃない初期研修医にどう対応するか、これもまた課題です。

⑤ おまけ

今年の日本産科婦人科学会学術講演会は、日ハムが日本一を決めた地「広島」が会場です。学会発表（ポスター発表ですが）も頑張ろうと思います。

以上、今年の目標を挙げました。今年のペナントレースの行方も気になりますが、自身の目標達成なるかも気になるところです。今年もよろしくお願ひ致します。

